

「宝が池の森」から広がる 人と自然の新たな関係

宝が池の森は古くから里山として維持され、五山の送り火などの文化を支えてきました。何よりも宝が池が誇るべきは、京都議定書採択の地であることでしょう。

しかし、この森もマツ枯れ、ナラ枯れやシカの食害などで自然の劣化が続いたため、森で多様な活動を行う市民団体、地域住民、研究者が行政と連携して「『宝が池の森』保全再生協議会」を形成し、10年にわたって保全・再生の努力やその支援を行ってきました。

この森は生物多様性や文化の観点から、世界に発信できる地です。ネイチャー・ポジティブ（自然再興）という言葉が理解されるようになってきた今、宝が池の森で何が行えるのか、あらためて皆さんと考えたいと思います。

令和8年3月7日(土)

13:00~17:15 (開場 12:30)

会場：京都工芸繊維大学 60周年記念ホール



参加
無料

◆事前申し込み：Google フォーム
定員：150名



<https://x.gd/0bchG>



プログラム

●趣旨説明

「宝が池の森」の自然環境が生みだす市民の活動と多元価値

柴田昌三 / 「宝が池の森」保全再生協議会会長

●「宝が池の魅力向上のための京都市の取組」

京都市建設局みどり政策推進室

▼「宝が池の森」保全再生協議会の活動はこちら



<https://takaragaike.takara-bune.net>

第1部 「宝が池の森の活動紹介—市民の自主的活動」

13:30~

1. 里山のプレイパークから発進、あそび文化と森育て
野田奏栄 / (公財)京都市都市緑化協会
2. なぜ私たちは、宝が池で活動するのか
高谷淳 / 京都宝の森をつくる会
3. 送り火文化と森を守る地域の力
岩崎正彦 / (公財)松ヶ崎立正会
4. 森で育む子どもの生きる力
石川麻衣子 / (一社)森のようちえん「どろんこ園」
5. 落ち葉コンポストがつなぐ森と地域
松本恵生 / 京都市岩倉地域包括支援センター



第2部 「宝が池の森での活動が持つ意義—研究者の視点」

14:40~

1. 森とともにある子どもたち
丹羽英之 / 京都先端科学大学バイオ環境学部
2. 森の再生・ネイチャーポジティブを促す社会動向と制度
西田貴明 / 京都産業大学生命科学部
3. 「宝が池の森」保全再生協議会が持つ意義
鎌田磨人 / 徳島大学大学院
社会産業理工学研究部社会基盤デザイン系
4. 「宝が池の森」での活動に見る多元世界
ハイン・マレー / 京都府立大学農学
食科学部 和食文化科学

第3部 総合討論—「宝が池の森のこれから～課題と展望」

16:00~

パネルディスカッション

「宝が池の森」のこれから～展望と課題」

進行：鎌田磨人

パネリスト：柴田昌三、ハイン・マレー、
丹羽英之、西田貴明 <順不同>

